【巻頭言】

人間福祉研究第 17 号発刊にあたって

木村　敦子
Atsuko　Kimura

広島文教女子大学に人間福祉学科が開設されて 19 年が経ち，2019 年 4 月にはひとつの節目とも言える，第 20 期の新入生を迎えることになります。現場の指導者として卒業生と邂逅することも増え，本学が地域にしっかり根をおろしたのだと実感し，改めてその歴史に思いを馳せる機会が増えました。

今年度は 2018 年 10 月 8 日（月），本学において人間福祉学会を開催しました。「職場での人間関係の構築や連携のあり方について」と題し，仕事の内容や職場での人間関係，困難に遭遇した時の対処法などについて，卒業生 3 名にお話しいただきました。職場における「学ぶ姿勢」や周囲へ助けを求めることの大切さ，仕事以外の時間を充実させることや研修会や勉強会への積極的な参加を通した自己研鑽等，教員にとっても，自らに当てはめて考えさせられる話を聞くことができました。また，困難に直面した際，本学で共に学んだ仲間同士の対話を活力にしているとの話もありました。分野が違えども，本学での学びの成果である「援助観」が共通していることで，大切なつながりが継続していくのだと実感できる機会となりました。

広島での開催に先立つ形で，2018 年 9 月 15 日（土）には，松江市で第 4 回目となる島根ブロック大会を開催しました。今回は，企画の段階から島根に在住する卒業生が中心となり，当日の運営や司会についても多大なご尽力をいただきました。第 1 部では，蛯江紀雄先生に「福祉現場で働き続けてきて　今振り返って思うこと」と題し，講演していただきました。蛯江先生が福祉の世界に身を投じるに至ったいきさつや，これまでに出逢った多くの方々や大切な言葉等についてお話を伺い，これからも福祉の世界に関わり続ける卒業生や在学生，教員にとってたいへん貴重な機会となりました。

続く第 2 部では，勤務年数別分科会と領域別分科会が開催されました。先輩及び在学生，そして教員が勤務年数や領域毎にわかれ，職場や仕事の現状やワーク・ライフ・バランスにおける課題，今後の自らの成長や展望等について意見や情報を交換しました。

卒業生による企画及び運営がたいへん充実しており，堂々と司会をこなす姿など，多くの頼もしい姿にふれることで，これまで以上に卒業生の成長を実感できる会となり，感慨もひとしおでした。

人間福祉学会は，学びの場であると共に，「文教だからこそ」の心やつながりを確認し，形にする場です。私たち自身も皆さんに負けないよう，これからもさらに多くの学びやつながりを提供していくことができたらと考えています。

ご存じの通り，本学は共学化に伴い，2019 年度より「広島文教大学」と名を改めます。本学会の名称も少しだけ変わりますが，大学，そして学科おける教育活動には，これまで以上に様々な変化が生じるのではないかと楽しみにしています。ぜひ直接本学を訪れ，その変化に触れていただくとともに，在学生に向けて多くの学びを授けていただければ幸いです。皆様におかれましては，今後ともご支援賜りますようよろしくお願いいたします。